



2022年版東洋経済CSR評価項目一覧

2022/4/26・28

東洋経済

■人材活用

No	評価項目	2022年版 新規	得点	平均点	ポイント
1	女性社員比率		2	0.66	女性比率が高いほうが得点も高い。
2	世代別女性従業員数		2	1.42	各世代の女性従業員数の回答で得点化、上限あり。
3	離職者状況		2	1.48	回答があれば得点あり。
4	年間総労働時間の回答		2	1.25	回答があれば得点あり。
5	残業時間・残業手当		3	1.38	少ないほうがよい。回答があれば得点あり。残業手当は回答得点のみ。
6	残業削減の取り組み		3	2.28	取り組み、取り組み内容を合わせて見ている。内容は回答があれば差はつかない。
7	30歳平均賃金		3	1.39	一定金額以上で得点プラス。25万円以上、30万円以上で差がつく。
8	外国人管理職の有無		2	0.56	一定人数以上いれば得点。
9	女性管理職比率		2	0.54	高いほうがよい。
10	女性部長比率		2	0.43	高いほうがよい。
11	女性役員比率		2	0.83	1人でもいれば得点だが高いほうがよい。
12	ダイバーシティ推進の基本理念		1	0.53	基本理念が回答(妥当な内容)されていれば得点。
13	ダイバーシティ尊重の経営方針		1	0.49	経営方針が回答(妥当な内容)されていれば得点。
14	多様な人材登用部署		2	0.83	専任、設置予定の得点が高い。
15	多様な管理職登用(比率)の目標値		1	0.47	妥当な目標値が回答されていれば得点。
16	障害者雇用率(実績)		4	1.25	高いほうがよい。2.3%では平均的な得点。
17	障害者雇用率の目標値		1	0.59	妥当な目標値が回答されていれば得点。
18	65歳までの雇用・定年後の就業機会		3	2.02	「全員雇用」が最も得点が高い。定年後の就業機会確保も見ている。
19	LGBTへの対応		2	1.25	基本方針、取り組みを合わせて見ている。基本方針は回答があれば差はつかない。
20	有給休暇取得率(最新年度)		5	1.29	高いほうがよい。コロナで全体の取得率が下がったため90%以上が最高得点に変更。
21	産休期間		2	0.25	法定以上のほうが得点が高い。
22	産休取得者		2	1.31	3年間で見ている。
23	育児休業取得者		2	1.39	3年間で見ている。
24	男性の育児休業取得者		2	1.21	3年間で見ている。
25	男性の育児休業取得率		3	0.74	取得率が高いほうがよい。回答得点もあり。
26	配偶者の出産休暇制度		1	0.75	制度ありで得点。
27	介護休業取得者		3	1.49	単年度の人数、3年間の回答状況を見ている。
28	看護休暇・介護休暇		3	1.55	法定以上のほうが得点が高い。
29	退職した社員の再雇用制度		2	1.04	「有」のほうが得点が高い。
30	ユニークな両立支援制度		2	0.95	何らかの制度があれば得点。
31	勤務形態の柔軟化に関する諸制度		5	3.90	各諸制度の積み上げで得点化。上限あり。
32	テレワークの導入	●	1	0.66	導入していれば得点あり。
33	副業・兼業	●	1	0.33	認めていれば得点あり。
34	ハラスメント防止	●	1	0.84	取り組みを行っていれば得点あり。
35	従業員のインセンティブを高めるための諸制度		5	3.46	各諸制度の積み上げで得点化。上限あり。
36	労働安全衛生マネジメントシステム		2	1.39	「有」のほうが得点が高い。
37	労働安全衛生分野の表彰歴		2	0.54	表彰事例の回答があれば得点あり。連続で有のほうが得点が高い。
38	労働災害度数率		1	0.17	一定比率以下(2年分)で得点。
39	メンタルヘルス休職者数		2	1.24	回答得点のみ。2年以上の回答でプラス得点。数値は見えない。
40	人権尊重等の方針		2	1.56	「有」のほうが得点が高い。
41	人権尊重等の取り組み		2	0.99	取り組みが記載(妥当な内容)されていれば得点。
42	中核的労働基準を尊重した経営		2	1.28	「有」のほうが得点が高い。
43	中核的労働基準4分野の対応状況		2	1.19	対応分野が多いほうが得点が高いが上限あり。
44	能力・評価結果の本人への公開		2	1.59	「公開」のほうが得点が高い。
45	従業員の評価基準		2	1.60	「公開」のほうが得点が高い。評価反映項目の回答でプラス得点。
46	1人当たり年間教育研修費用	●	2	0.60	回答得点と金額の2段階で得点化。
47	従業員の満足度調査		2	1.39	「行っている」のほうが得点が高い。
48	キャリア形成支援	●	3	1.60	キャリアパス・キャリアマップ等の提示、キャリア研修、キャリア相談の3つで得点化。
49	新卒入社者の3年後定着度		4	2.05	新卒3年後定着率が高いほうが得点が高い。75%以上が目安。95%以上が最高得点。
50	発生した労働問題の開示		1	0.12	回答があれば得点。
			基礎得点 満点	111	

■環境

No	評価項目	2022年版 新規	得点	平均点	ポイント
1	環境担当部署の有無		2	1.11	「専任」が得点は最も高い。
2	環境担当役員の有無		2	0.67	「専任」が得点は最も高い。
3	同役員の担当職域		2	0.15	「100%」のほうが高得点。
4	環境方針文書の有無		2	1.32	「有」のほうが高得点。
5	環境会計の有無		1	0.35	「有」のほうが高得点。
6	同会計における費用と効果の把握状況		2	0.75	環境省ガイドライン、自社・業界独自いずれも同じ得点。
7	環境会計の主要項目開示(パフォーマンスの開示状況)		3	1.48	一定以上の回答で満点。
8	環境監査の実施状況		3	2.05	実施しているほうが高い。
9	ISO14001取得体制		3	2.14	ISO14001、自社独自いずれも同じ得点。
10	ISO14001取得率(国内・海外)		4	1.55	取得率が高いほうが得点は高い。自社の独自の取得率(把握率)でも可。国内・海外を合わせた評価。
11	グリーン購入体制		2	1.16	GPN、自社独自指針いずれも同じ得点。
12	事務用品等のグリーン購入比率		3	0.67	80%以上が目安。
13	原材料のグリーン調達		3	1.62	実施しているほうが得点は高い。
14	原材料調達の取引先対応		2	0.93	回答があれば得点あり。
15	環境ラベリング		3	1.46	「開示」のほうが高得点。
16	土壌・地下水の汚染状況把握		2	1.22	回答があれば得点あり。
17	水問題の認識		1	0.81	回答があれば得点あり。
18	環境関連法令違反の有無		3	1.98	無いほうが得点は高い。未回答はゼロ点。
19	環境問題を引き起こす事故・汚染の有無		3	1.97	無いほうが得点は高い。未回答はゼロ点。
20	環境分野・CO ₂ 排出量等削減への中期計画の有無		5	3.18	「有」のほうが高得点。さらに妥当な内容の回答があるとプラス得点。
21	スコープ3		2	1.07	数値回答有で評価。カテゴリーや数値内容では評価していない。
22	炭素利益率(ROC)	●	2	1.01	温室効果ガス排出量の回答があれば得点。
23	2020年度の環境目標・実績		4	1.68	目標・実績回答が重要。自己評価はすべて回答があった場合は得点のプラスはなし。
24	気候変動への対応の取り組み		2	1.60	「行っている」のほうが高得点。回答があれば得点あり。
25	気候変動に関するシナリオ分析		2	1.01	「行っている」のほうが高得点。回答があれば得点あり。
26	再生可能エネルギーの導入		2	1.56	「行っている」のほうが高得点。回答があれば得点あり。
27	カーボンプライシングの認識	●	1	0.62	回答があれば得点あり。
28	環境関連の表彰歴		2	0.55	表彰事例の回答があれば得点あり。2年連続で有のほうが高得点。
29	環境ビジネスへの取り組み		3	1.81	「行っている」のほうが高得点。回答があれば得点あり。具体的内容の回答でプラス得点。
30	プラスチック削減の取り組み	●	3	1.47	回答があれば得点あり。具体的内容の回答でプラス得点。
31	生物多様性保全への取り組み		3	1.41	妥当な回答があれば得点。
32	生物多様性保全プロジェクトへの支出額		5	0.96	売上規模ごと(3段階)の得点。把握して回答することが重要という認識。
			基礎得点 満点	82	

■企業統治

No	評価項目	2022年版 新規	得点	平均点	ポイント
1	中長期的な企業価値向上の基礎となる経営理念		2	1.70	「有」のほうが得点は高い。
2	CSR活動のマテリアリティ設定		3	1.91	「有」のほうが得点は高い。マテリアリティの内容の回答でプラス得点。
3	ステークホルダー・エンゲージメント		3	1.85	「有」のほうが得点は高い。エンゲージメントの内容の回答でプラス得点。
4	活動報告の第三者の関与		2	1.06	「有」のほうが得点は高い。
5	英文での活動報告	●	2	1.29	「有」のほうが得点は高い。
6	CSR担当部署の有無		2	1.15	「専任部署:有」のほうが得点は高い。
7	CSR担当役員の有無		2	0.71	「専任」が得点は最も高い。
8	同役員の担当職域		2	0.20	「100%」のほうが高い。
9	CSR方針の文書化の有無		2	1.29	「有」のほうが得点は高い。
10	IR担当部署		2	1.37	「専任部署:有」のほうが得点は高い。
11	法令順守関連部署		2	1.40	「専任部署:有」のほうが得点は高い。
12	国内外のCSR関連基準への参加等		3	1.74	参加の件数で得点化だが上限あり。3分の1以下でも満点になる。
13	内部監査部門の有無		2	1.72	「有」のほうが得点は高い。
14	内部通報・告発窓口(社内・社外)設置		3	2.44	「設置済み」のほうが得点は高い。
15	内部通報・告発者の権利保護に関する規定制定		3	2.56	「制定済み」のほうが得点は高い。
16	内部通報・告発件数		5	2.01	数値回答有で評価。2年連続回答有のほうが得点は高い。数値内容でプラス得点。さらに実効性向上への取り組み内容の回答でもプラス得点。
17	公正取引委員会からの排除措置命令等・他		3	2.01	無いほうが得点は高い。未回答はゼロ点。
18	不祥事などによる操業・営業停止		3	2.01	無いほうが得点は高い。未回答はゼロ点。
19	コンプライアンスに関わる事件・事故での刑事告発		3	2.01	無いほうが得点は高い。未回答はゼロ点。
20	海外での価格カルテルによる摘発		3	1.84	無いほうが得点は高い。未回答はゼロ点。
21	海外での贈賄による摘発		3	1.84	無いほうが得点は高い。未回答はゼロ点。
22	汚職・贈収賄防止の方針		3	2.12	「有」のほうが得点は高い。内容の回答でプラス得点。
23	政治献金等の開示		3	1.46	数値回答有で評価。3年連続回答有が、最も得点は高い。
24	内部統制の評価		3	2.86	「有効」が最も高い評価。未上場は一定得点。
25	相談役・顧問制度の状況についての開示		1	0.88	回答があれば得点あり。
26	社外取締役による経営者評価	●	1	0.49	「行っている」で得点あり。
27	任意を含む指名・報酬委員会等の設置	●	1	0.59	「設置している」で得点あり。
28	ESG等関連指標の役員報酬への反映	●	2	0.22	「反映している」で得点あり。
29	情報システムに関するセキュリティポリシーの有無		2	1.69	「策定済み」で得点あり。
30	情報システムのセキュリティに関する内部監査の状況		2	1.59	「定期的実施」のほうが得点は高い。
31	情報システムのセキュリティに関する外部監査の状況		2	1.22	「定期的実施」のほうが得点は高い。
32	プライバシー・ポリシーの有無		1	0.78	「制定済み」で得点あり。
33	リスクマネジメント・クライシスマネジメントの体制		2	1.57	「有」のほうが得点は高い。
34	リスクマネジメント・クライシスマネジメントに関する基本方針		2	1.49	「有」のほうが得点は高い。
35	リスクマネジメント・クライシスマネジメントに関する対応マニュアルの有無		3	2.33	「有」のほうが得点は高い。
36	リスクマネジメント・クライシスマネジメント体制の責任者		2	1.62	「代表者」「代表者に準ずる取締役等」が最も得点は高い。
37	BCM構築		2	1.17	「有」のほうが得点は高い。
38	BCP策定		2	1.50	「有」のほうが得点は高い。
39	リスクマネジメント・クライシスマネジメントの取り組み状況		2	1.30	回答があれば得点あり。
40	企業倫理方針の文書化・公開		3	2.28	「文書化・公開」のほうが得点は高い。
41	倫理行動規定・規範・マニュアルの有無		2	1.60	「有」のほうが得点は高い。
		基礎得点 満点	96		

■社会性

No	評価項目	2022年版 新規	得点	平均点	ポイント
1	消費者対応部署の有無		2	1.20	「専任部署:有」のほうが得点は高い。
2	社会貢献担当部署の有無		2	0.99	「専任部署:有」のほうが得点は高い。
3	商品・サービスの安全性・安全体制に関する部署の有無		2	1.27	「専任部署:有」のほうが得点は高い。
4	社会貢献活動支出額		6	1.72	規模(売上高)別の3年間の合計額で得点化。
5	NPO・NGO等との連携		4	2.17	「有」のほうが得点は高い。
6	ESG情報の開示		3	2.28	「有」のほうが得点は高い。
7	投資家・ESG機関との対話		2	1.25	「行っている」のほうが得点は高い。
8	消費者からのクレーム等への対応マニュアルの有無		2	1.39	「有」のほうが得点は高い。
9	同クレームのデータベースの有無		2	1.46	「有」のほうが得点は高い。
10	ISO9000Sの取得状況(国内・海外)		3	1.52	取得率が高いほうが得点は高い。自社独自の取得率(把握率)でも可。国内・海外を合わせた評価。
11	ISO9000S以外(独自等)の品質管理体制		3	1.18	内容の記載があればプラス得点。
12	地域社会参加活動実績		2	1.61	妥当な回答があれば得点。
13	教育・学術支援活動実績		2	1.29	妥当な回答があれば得点。
14	文化・芸術・スポーツ活動実績		2	1.25	妥当な回答があれば得点。
15	国際交流活動実績		2	0.91	妥当な回答があれば得点。
16	CSR・サステナブル調達の実施		4	2.30	「行っている」のほうが得点は高い。さらに、基準の開示、調達先監査・評価でプラス得点。
17	CSR・サステナブル調達の取り組み事例		2	0.89	妥当な回答があれば得点。
18	取引先に対する基本方針		2	1.30	「有」のほうが得点は高い。
19	紛争鉱物の対応		2	1.12	「対応している」のほうが得点は高い。
20	SDGsの目標への意識		2	1.51	「参考にしている」のほうが得点は高い。
21	SDGsの目標達成基準	●	3	1.54	「数値等で持っている」のほうが得点は高い。具体的な対応や目標の回答があればプラス得点。
22	社会課題解決ビジネスの取り組み		4	1.56	「CSVの取り組み」「BOPビジネス」を行っていれば得点。具体的な取り組み(CSVを含む)の回答があればプラス得点。
23	海外での課題解決の活動		2	0.84	妥当な回答があれば得点。
24	ボランティア休暇		4	0.73	取得者がいるほうが得点は高い。さらに一定人数以上でプラス得点。
25	ボランティア休職・青年海外協力隊参加		4	0.30	取得者がいるほうが得点は高い。さらに一定人数以上でプラス得点。
26	マッチング・ギフト		1	0.18	「有」のほうが得点は高い。
27	ボランティア休暇等の社員への周知	●	3	1.22	「行っている」のほうが得点は高い。さらに具体的内容があればプラス得点。
28	社員向けの社会課題解決への関心を高める取り組み	●	3	1.72	「行っている」のほうが得点は高い。さらに具体的内容があればプラス得点。
29	プロボノ支援		4	1.07	「行っている」のほうが得点は高い。「社員が行うプロボノ活動の支援取り組み」でプラス得点。
30	CSR関連の表彰歴		2	0.64	表彰事例に回答があれば得点あり。連続で有のほうが得点は高い。
31	自然災害・パンデミックへの支援		4	2.52	「行っている」のほうが得点は高い。他の復興支援や新型コロナ課題解決でプラス得点。
		基礎得点 満点	85		